

令和6年度 第3回久留米市地域公共交通会議 議事録

項 目	内 容
開催日時	令和 7 年 1 月 15 日 (水) 10 時 00 分～11 時 40 分
開催場所	久留米商工会館 5 階 大ホール
委員等の 出欠状況	・ 委員 (26 名) 出席 23 名 (会場 21 名、Web2 名) 【うち代理 3 名】、欠席 3 名 ・ 臨時委員 (6 名) 出席 1 名 (会場のみ)、欠席 5 名 ・ オブザーバー委員 (1 名) 出席 1 名 (会場のみ・代理)
議事概要	1 開 会 2 会長挨拶 (牧野会長) 〔事務局より〕 (1) 委員名簿及び席図をもって委員の紹介 (2) 委員、臨時委員 32 名中 24 名の出席をもって、設置要綱 第 10 条第 2 項に基づき会議成立を報告 (3) 傍聴希望がなかったことを報告 3 議 事 (1) <u>議案第 6 号 令和 6 年度久留米市生活交通確保維持改善計画 (久留米市地域内フィーダー系統確保維持計画) の一次評価に ついて</u> 〔主な説明内容〕 ・ 事業評価について説明。 ・ よりみちバスの令和 6 年 9 月までの利用状況を説明。今回の事業期間は、両地域ともに合計利用者数が過去最多となった。 ・ 2 つの数値目標は、北野地域の満足度および城島地域の利用者数が未達成。 ・ 「満足度」は市民意識調査を基に設定しており、よりみちバスだけではなく、バス・鉄道・タクシーなども含めた公共交通機関全体の満足度であり、市全体として下がっている傾向である旨を説明。 ・ 利用状況・目標達成状況をもとに所定の様式に整理した。 ・ 事業実施については、利用促進やルート変更など計画的に一定の取り組みができたことから A 評価としたが、目標・効果達成状況については一部目標が達成できなかった点を考慮し B 評価とした。 ・ 両地域ともに、今後はよりみちバスとともに、鉄道やバスについても、各交通事業者様と密に連携し、利用環境改善などの利便性向上や利用促進に取り組む必要がある。

項 目	内 容
議事概要	〔議案第 6 号の主な質疑応答〕 (委員) 北野・城島地域に差があることは以前から言及しており、北野が利用者数、城島が満足度の目標を達成、一方で北野が満足度、城島が利用者数の目標は未達成と対照的である。目標値 2 の満足度を見てみると、北野は 43.5%で、前年度より上がっていても未達成、一方で城島は 22%で、前年度より下がっていても達成となっている。 よりみちバスに関して言えば、おそらく両地域のサービスレベルに大差はないと思われるが、満足度は両地域で異なっている。 買い物や病院などの目的地となる施設の立地状況が異なるなど、地域特性も影響すると思われるが、両地域の差の要因でわかることがあれば教えてほしい。 (事務局) 地域特性はあると考えている。北野地域は比較的買い物施設や病院が各地域に満遍なくある一方、城島地域は、縦に長い路線を走っていること、病院、スーパーが中心部に集まっていることもあり、バス 1 便当たりの運行時間が長いといった違いがある。 目標は、地域の皆様や、こういった会議の場でアドバイスをいただきながら定めることが必要と考えている。また、本市の地域公共交通計画が令和 8 年 3 月に期間満了を迎える。計画の更新の機会に、どのような目標が適正なのかなども含めて議論をしていきたい。 (委員) 目標の達成状況を見るとコスモス号の利用者数は非常に伸びが大きい。今後、目標はさらに高く設定をされていくものと思うが、伸び続けている要因はあるのか。 (事務局) コスモス号は、時刻表に関するアンケート調査で利用者の方に直接お話を聞いた際、最初にコスモス号に乗るきっかけは、自動車免許証返納のタイミングや、あるいは利用者からの口コミであるなどの声が聞かれ、草の根的な PR も大きいと思われる。また、1 ヶ月定期の利用が 8 割程度いるので、生活の足として定着し、リピーターが増えていることが、要因としてあると考えている。 (委員) 北野と城島では目標の達成状況が異なるにも関わらず、今後の改善点の記載内容が似通っているが、目標達成へのアプローチとしては変わってくるのでは。取り組みとして利用環境の改善等による利便性の向上及び利用促進に取り組むとあるが、具体的に地域ごとに重点的に取り組む事項があれば教えていただきたい。

項 目	内 容
	(事務局) 例えば城島地域は、地域の方から、乗り方がわからない人向けの講座をやってほしいといった声も上がっているため、地域と連携した取組みとして、乗り方教室のような利用促進に力を入れたいと考えている。一方北野地域はリピーターも含めて利用者数が伸びているので、時刻表の改善など満足度向上に資する付加価値的な取組みを、利用促進と並行して実施できればと考えている。 (委員) 北野・城島地域の違いとして、どれぐらいの方がよりみちバスを必要としているかという母数がそもそも違うのではと考える。運転免許証の返納者や日常的に自家用車を利用しない、利用することができない方が、北野地域の方が多いのではないか。高齢者であっても、同居家族がおり日常的に自家用車で移動できる環境であれば、よりみちバスは必要ではないし、独居だとか、或いは農業を営んでいても、兼業だと、昼間は高齢者しかおらず、移動手段がないなど、様々な状況の違いがあると思う。そのような属性の違いが、北野・城島地域にあるのではないか。 (事務局) 北野は、西鉄甘木線沿線に住宅が張り付いており、公共交通が充実しているという特性がある。城島は、もともと鉄道がない地域であり、昔から農業が発達しているため、農業従事者が軽トラックを自分で運転するなど、車移動が中心的地域であると言える。よりみちバスの利用状況にも地域特性が出ているのではと思っている。ただ、今後、城島地域でも車での移動が難しくなる方が増加してくるため、そのような時に使ってもらえるように、今からよりみちバスという移動手段がある、ということをしてPRし、認知度を上げる取組みを行い、北野と同等のレベルまで上げていくことが大事だと考えている。 (委員) おそらく地域特性により、よりみちバスを必要とされている方の数も違うかもしれない。したがって、どれぐらいの方がそれぞれの地域でよりみちバスを必要とされているのかを念頭に、その中でどれぐらいの方が利用しているのかを考えていく必要があると思う。一概に北野は利用者が多いが城島はまだ少ないという評価ではないのかもしれない。今後、目標を設定する際は、何らかの形で地域特性を考慮し、検討できればよいのではと思う。 (委員) 城島は、介護保険のサービスが少ない地域であるため、そのような視点で見ると、バスに対するニーズが北

項 目	内 容
	野と異なるのでは。もしデータがとれるのであれば、他の課が所有するデータと照らし合わせながらニーズを把握し、目標を設定してもよいのでは。 (議長) よりみちバスの利用者数は、並べてみると多い少ないという議論になってしまうが、地域特性があり単純に比較はできない。城島は農村地域なので住宅が密集しておらず疎である一方、北野は西鉄甘木線をベースに住宅が張り付いているのでバスが回りやすいなど、まずは地域の構成を整理すべきという指摘があった。 そして、よりみちバスを必要とする人の母数や、人口の集中度も若干違うはずなので、人口の実態や高齢者の人数も含め、どういうところにニーズがあるのかももう少し掘り下げて見てみると、この2つの地域の違いが明確になる。そういった地域特性を踏まえてこの目標値になっているということが、一般の方にわからないと、単純に2つの地域の目標値や実績を並べると、なぜ差があるのかという話になってしまう。大切なのはニーズを踏まえた上でサービスが行き届いているのか否かということになると思う。 また、A日程とB日程がある中で、1日利用券と定期券を分けてしまうと、いつも出かける人にとっては使いにくいのではないか。どういう利用実態やニーズがあるのかを把握すべきという意見があった。 もう1点は、路線の延長が長いと乗車時間が長くなるためなかなか乗ってくれないというのは、コミュニティバスの致命的な問題になる。延長でどれぐらいの時間がかかっているかということも、利用者の使い方に非常に関係してくるので、その辺も含めて、引き続き分析していく。城島の利用者と満足度が低いのは、もともと鉄道駅もないなど、公共交通全般の問題も含まれていると理解しているが、利用者は増えているので、さらに適宜適切な見直しをかけながら、利用者増を目指していきたい。 ●議案第 6 号は議案通り承認する。 (2) <u>議案第 7 号 北野地域よりみちバス「コスモス号」の運行計画変更(案)について</u>

項 目	内 容
	〔主な説明内容〕 ・北野地域生活交通検討会の委員からの要望として挙げられたもので、住民の利便性向上のため、集落のある場所を運行するようにルートを変更する。 ・変更により影響を受けるのは金島線のみであること、集落の中に入っていくことで距離約 1,300m、所要時間約 4 分が増加すること、最終便が終点に着く時間は、36 分後ろにずれることになる。 ・変更は令和 7 年 4 月 1 日(運行日程上実際は 4 月 2 日)の予定 〔議案第 7 号の主な質疑応答〕 (委員) 利用者の利便性向上のためにルート変更することは賛成だが、運転士からは、現状でもトイレに行く時間をとることも難しいという声もきく。運転士の休憩時間の余裕をしっかりと確保していただきたい。 (事務局) ルート変更にあたっては、事業者や運転士に無理がない形で進められるよう、しっかり話し合って進めていきたい。 (委員) 要望に応じて細かく回るのは非常に良いことだが、現状要予約バス停である宮地嶽神社に需要はあるのか。要望だけなのか、これまでの予約実績から通常バス停化するのかで大分違うと思う。 (事務局) 利用者数は金島線の要予約バス停の中でも、中程度であり需要はあると考える。 (委員) 最終便到着が 36 分後ろ倒しになることで、利用者の生活リズムと合わなくなることはないのか。 (事務局) 例えば買い物施設に到着し帰りのバスが発車するまでの時間に余裕がなくなり、買い物の時間が不十分になることがないよう、単純に後ろ倒しにする措置を取っているため、病院や買い物などの生活には影響はないと考えている。また、駅との接続等も考慮している。 ●議案第 7 号は議案通り承認する。 (3) <u>報告第 4 号：久留米市の公共交通の利用状況について</u> 〔主な説明内容〕 ・市の地域公共交通計画は令和 8 年 3 月に期間満了を迎えるため、今後新しい計画を策定する。

項 目	内 容
	・計画には、高齢化の進展などにより、生活支援交通も含む公共交通の役割は今後ますます大きくなっていくことを踏まえ、生活支援交通の方針も盛り込む必要があると考えている。 ・今後、委員からの意見や助言を踏まえて具体的に計画の策定を進めるが、今回は、その頭出しとして現状を報告する。 ・市内を運行する鉄道、路線バスの利用状況を報告。 ・コミュニティタクシーの制度概要の説明とともに、地域特性によって、利用状況は校区によりばらつきがある旨を報告。 ・よりみちバスの利用状況を報告。11月の1便あたりの乗車人員は北野で3.2人、城島で1.6人であったことや、時間帯別にみると午前に利用が集中し、夕方の利用が少ない傾向がある。 ・生活支援交通の利用実態を見てみると、それぞれに改善の余地があるため、今後、地域公共交通計画の策定にあたり、このような現状を踏まえて、効率的で利用者にとって使いやすい生活支援交通はどのようなものか、検討を進めたい。 〔報告第4号の主な質疑応答〕 なし <その他：情報提供・意見交換> ①久留米市交通政策課（事務局） 〔主な説明内容〕 ・小学生・高齢者向け路線バスの乗り方教室（小学生向けは西鉄バス久留米㈱と連携） ・久留米エリア MaaS 実証実験第二弾「田主丸つともぎもぎきっぷ」 ・コスモス号のバス停掲示時刻表の改善案 ・よりみちバス乗り方教室「インガット号マイスター講座」 ②九州旅客鉄道株式会社 久留米鉄道事業本部 部長 藤高 尚樹 氏 〔主な説明内容〕 ・ちくご・ゆふ 高原マルシェ ・南久留米駅開業イベント ③西鉄バス久留米株式会社 取締役営業本部長 下川 裕二 氏 〔主な説明内容〕 ・こども 50 円バス

項 目	内 容
	・オレンジ健康フェスタへの参加 ・バス教室(久留米聴覚特別支援学校・久留米市荘島小学校) ・乗務員の採用活動 ④西日本鉄道株式会社 鉄道事業本部計画部 計画課 課長 田代 幸輔 氏 〔主な説明内容〕 ・グランド電車割 20 ・サイクルトレインの運行 ・タッチ決済の導入 ・観光列車の取り組み(筑後川花火大会に合わせた特別運行) 〔主な意見交換〕 ※議長より、委員一人ずつに意見を求めた。主な意見を記載 ・利用を増やすためには、事業者・行政が地域と一体となって利便性を向上させる取り組みを進めることが非常に大事。 ・高齢化の進展により高齢者人口は増加。公共交通の利用の仕方がわからない、時刻表の文字が見えないなど、外出するときの障壁があり高齢者が出かけなくなることは、社会保障費の増加、財政のひっ迫という悪循環につながる。高齢者向けのバス乗り方教室はこの会議が縁で実現できた。引き続き知恵を借りながらいいまちづくりができたらと思う。 ・時刻表へのモデルルートの掲示はいい取り組みだと思うが、モデルルートはバス停に行かないと見られないので、いくつかのサンプルを校区の広報誌に掲載するなど、見に行ってもらえる工夫を。 ・市が今後策定する地域公共交通計画に、運転士確保の取り組みについての考えも反映してほしい。 ・地域公共交通がうまくいくためには、ニーズに合ったサービスの提供が非常に重要。また、利用してもらうためにも、乗り方教室やイベントに絡めた周知も非常に重要だと思う。 ・西鉄バスの江見線が廃止となるため、議論をしっかりとってほしい。また、路線バス・コミュニティバス・鉄道の利用状況は継続的に把握をしてほしい。 ※議長より総括。主な発言内容を記載 ・今回の意見を踏まえて今後計画の見直しを行っていきたい。 ・市はコンパクトなまちづくりを目指しており、駅から歩ける距離の人口が若干増加している実態は成果であり、計画見直しの柱になると考えている。

令和 6 年度 第 3 回久留米市地域公共交通会議 議事録

項 目	内 容
	・ 鉄道のない城島エリアや、青峰団地のエリア、佐賀方面は、今後バスの主要幹線のスピードアップが非常に重要になると思う。 ・ フィーダーの路線から、速いバスの主要幹線に乗り換えることができるなど、公共交通をさらに充実させ、利用者増加を目指していきたいと思っている。 ・ 一方で乗務員の確保や働き方改革も課題だと思うので、公共交通の充実とどう両立するのか、市の財源も限られる中、ニーズにどこまで応じることができるのかも探る必要がある。 ・ 交通の DX 化の取組みである MaaS が全国的に進んでいる。海外では、オフピークの割引やタクシーも使えるなど、多様な定期券にも対応できるサービスがあり、公共交通をより利用しやすくする流れがあるので、今後情報提供していきたい。 ・ よりみちバスのデータの深堀りやニーズの把握をしっかりとやるようにと意見があった。小郡市は、利用分析が精緻にできるデマンドバスを導入している。どういう使われ方をされているかなど、小郡市から入手した情報も参考にして、子供たちからお年寄り、障害者の方々も含めた利便性の向上に資する公共交通を考えていきたい。 4. 閉 会
署名	令和 6 年度第 3 回久留米市地域公共交通会議の議事は、上記に相違ありません。 令和 7 年 1 月 22 日 久留米市地域公共交通会議 会長 牧野 浩志

久留米市地域公共交通会議 委員名簿

No.	委員区分 第4条	所 属	委員名	備考	R7.1.15出欠		
					会場	Web	代理出席者
1	第1号	久留米市	副市長 牧野 浩志	会長	○		
2	第2号	西鉄バス久留米株式会社	取締役営業本部長 下川 裕二		○		
3	第2号	堀川バス株式会社	取締役統括部長 田中 智太郎		○		
4	第2号	株式会社甘木観光バス	代表取締役社長 池野 栄次		○		
5	第3号	九州旅客鉄道株式会社久留米鉄道事業部	部長 藤高 尚樹		○		
6	第3号	西日本鉄道株式会社鉄道事業本部計画部	計画課長 田代 幸輔			○	
7	第4号	一般社団法人福岡県バス協会	専務理事 中川原 達也		○		
8	第5号	福岡県筑後地区タクシー協会	会長 中川 恵司		○		
9	第5号	久留米市タクシー協会	会長 篠倉 博光		○		
10	第6号	久留米市校区まちづくり連絡協議会	幹事 山口 貴將	監事	○		
11	第6号	久留米男女平等推進ネットワーク	会長 永松 千枝		×		
12	第6号	NPO法人ル・バトー	理事 佐々木 久美子		○		
13	第6号	NPO法人高齢者快適生活づくり研究会	代表理事 吉永 美佐子		○		
14	第6号	子育て支援団体 もーりえ	会員 久保 三恵子		×		
15	第7号	国土交通省九州運輸局福岡運輸支局	支局長 古賀 秀策		○		運輸企画専門官 山浦 淳輝
16	第8号	西鉄グループバス労働組合	福岡本部執行委員長 茂島 健嗣		○		
17	第9号	国土交通省福岡国道事務所	計画課長 木場 和俊		○		計画課 主任 緒方 一真
18	第9号	福岡県久留米県土整備事務所	地域整備主幹 中島 伸二		○		
19	第9号	久留米市都市建設部	部長 坂本 淳一		○		
20	第10号	久留米警察署	交通第一課長 高橋 武稔		○		交通第一課 交通規制係長 高橋 大地
21	第10号	うきは警察署	交通課長 麻生 浩二		○		
22	第11号	福岡大学工学部	理事・工学部長 教授 辰巳 浩	副会長	○		
23	第11号	大分大学経済学部	教授 大井 尚司			○	
24	第12号	福岡県企画・地域振興部交通政策課	課長補佐 三重野 直美		○		
25	第12号	久留米商工会議所中小企業相談所地域振興課	職員 古家 美恵子	監事	×		
26	第12号	久留米市身体障害者福祉協会	役員 田村 美雪		○		
27	臨時	城島地域生活交通検討会	座長 末次 広治		×		
28	臨時	城島地域生活交通検討会	副座長 境 佳芳子		×		
29	臨時	北野地域生活交通検討会	座長 高尾 忠男		×		
30	臨時	北野地域生活交通検討会	委員 溝上 ゆり子		○		
31	臨時	大刀洗町企画財政課	課長 松元 治美		×		
32	臨時	みやき町事業部まちづくり課	課長 嬉野 透		×		
-	ワザ・バー	国土交通省九州運輸局交通政策部交通企画課	課長 鈴木 貴大		○		交通企画課 主査 柚井 達彦

【○出席、○代理、×欠席】